

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報 CH2/29に特異出現 7/25±可能性に修正

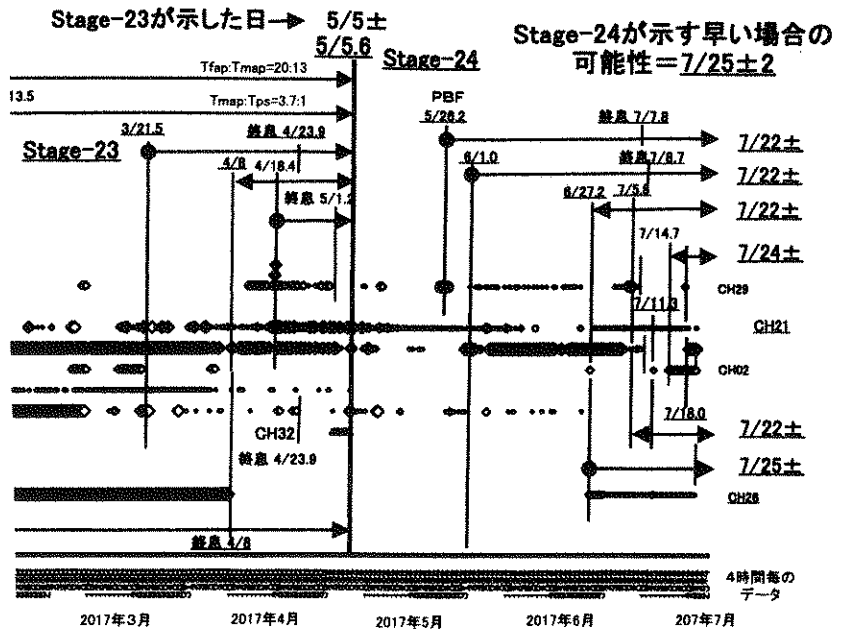
2008年07月より9年と云う観測歴上最長に前兆群が継続する特殊前兆No.1778の続報、現況報告です。

現在の大24ステージの前兆動向から、7/22±の可能性が示唆されましたが、その場合は、7/19に前兆が静穏化する可能性が計算されました。

これに対し実際は、7/19.0~CH21が静穏基線となりましたが、CH26は静穏化せず弱い前兆を記録。また7/14.7~静穏だったCH02に特異状態前兆が出現し、7/18.0を中心に短時間CH29にも特異状態前兆が出現しました。CH21の静穏基線も本日7/20昼頃より再び弱い前兆が出現しています。

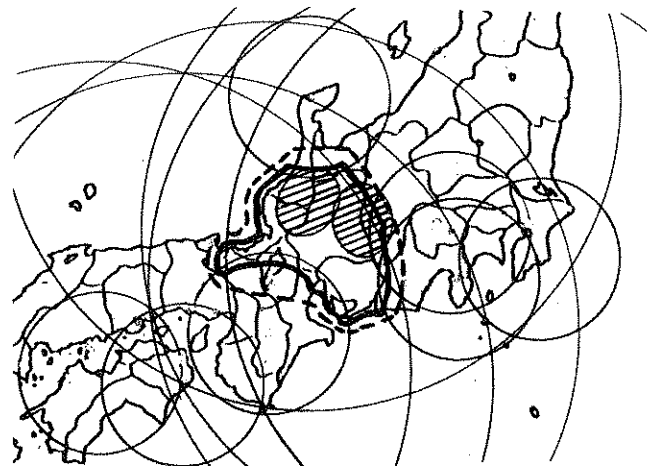
これらの観測事実から、CH21, CH26 が本日7/20午後現在完全静穏化していない点、7/14.7初現~7/18.0極大が認識できる点から、少なくとも7/23以前発生の可能性は否定できること、現状7/24~26時期の可能性が示唆されることとなります。

7/19.0よりCH17にも糸状特異が出現していますが、6/27.2極大に対する直前特異の可能性もあり、今後の変化を見て検討したいと考えます。



秋田観測点落雷被害で昨日7/19復旧作業実施

7/18午後、秋田観測点近隣に落雷があり、データが録れなくなりました。リモートで復旧を試みましたが復旧せず、急遽7/18夜、車で出発し、7/19朝秋田観測点に着、アナログ・デジタル変換器及び3台の受信機が落雷で故障していました。これらを代替器に交換し、念のためデータ収集通信用パソコンも交換し、受信機の周波数設定調整し、7/19昼に観測再開となりました。その後帰路につき、7/19夜に八ヶ岳に戻りました。A1, A3, A5の受信機を交換致しました。しばらく試験運用となります。秋田観測点に急遽出張となったため、情報の更新が遅くなりました。お許し下さい。



火山噴火の可能性前兆について

本観測法では、地震活動の他、火山性活動及び噴火活動に対する前兆も地震活動前兆とは異なる変動波形で検知できています。

7/11~14に秋田観測点・八ヶ岳南麓・高知観測点の全観測点で同期した火山前兆が観測されました。複数日やや顕著な前兆が観測された場合は噴火活動に至っています。今回も複数日のため、噴火活動に至る可能性が示唆されます。

E-mail及びFAXで日々登録者の皆様へ配信報告しております地震前兆検知観測情報では、7/12のNo.2928, 7/13のNo.2929, 7/15のNo.2930観測情報で、観測された火山活動前兆波形や、過去の実績波形「2014年の御嶽山水蒸気噴火・2015年の箱根噴火・2016年の新潟焼山微小噴火」の際の前兆波形も掲載し、波形の比較等も行いました。本HPはNo.1778長期継続前兆の続報「PHP新書の読者の皆様への続報」と限定させて頂いておりますため、これ以外については掲載していません。ご了承下さい。日々の実験観測情報配信ご希望の方は是非、公開実験にご参加下さい。参加の仕方は本HP内にあります。

- ◆No.1778大型地震推定領域：上図
点線領域内=大枠推定域 太線領域内=可能性考え易い
斜線領域=火山近傍の可能性が示唆されるため参考推定域
(白山周辺又は御嶽山・乗鞍岳・焼岳等周辺の可能性有)
- ◆推定規模：M7.8±0.5 (震源浅い日本列島地殻地震)
※7/11~14の噴火前兆が関連している場合は、地震活動に関連して火山噴火の可能性も有。
- ◆推定時期：前兆完全終息を確認後推定予定
現在考えやすい時期=7月25日±2
但し7月24日時点で前兆継続の場合は再考し修正
- ◇推定発生時刻：午前9時±1又は午後6時±3